

# 地下式プラスチック貯留材 雨水貯留浸透施設「クロスウェーブ工法」



(社)雨水貯留浸透技術協会 第9号技術評価認定取得

- 開発に伴う調整池・雨水利用などに利用できます。
- 空隙率95%以上のクロスウェーブ・ハイ発売開始！(2009年6月1日)

✚ 信頼の実績・・・全国実績 2104件以上 645,000m<sup>3</sup>以上 (2010年1月現在)

✚ 安心の構造・・・連続した接合面を有しない断面構造

地上部にかかる荷重を分散して基礎底面

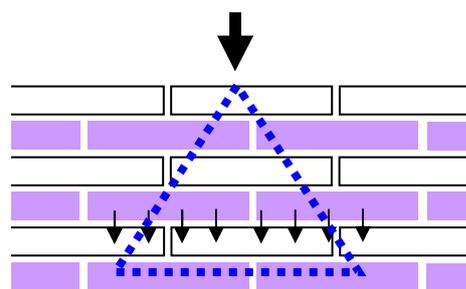
に伝えるため安定性抜群！

レベル2に相当する地震動でも安全

✚ 責任施工・・・豊富な施工実績を誇るスタッフ

による責任施工

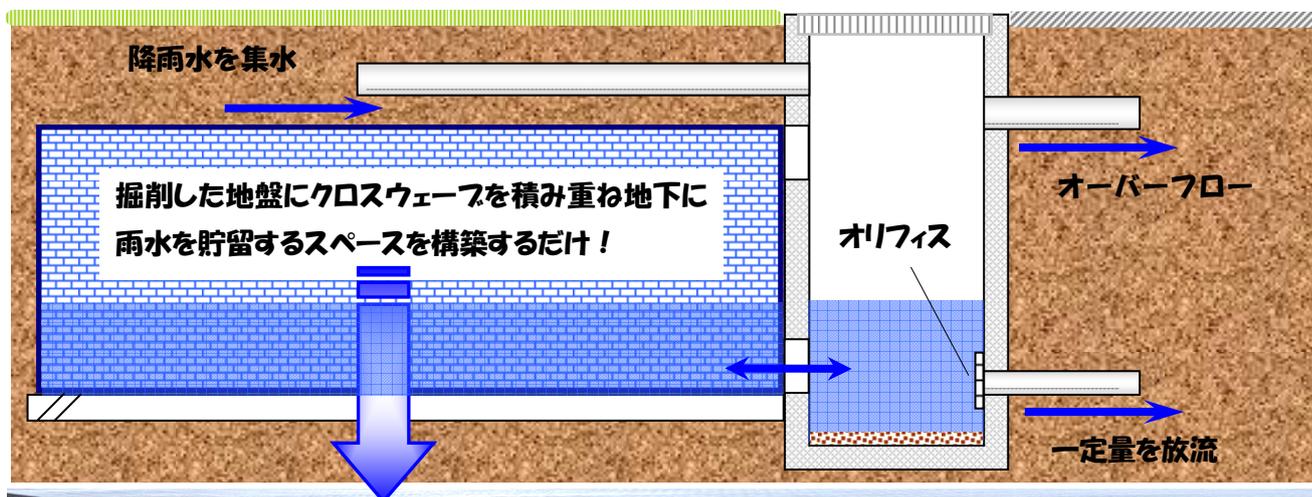
断面図



接続部材を一切使用しません

## ◇構造概念図(調整池として)

上部は公園、駐車場等として利用可能



千鳥配置構造により土木安定性抜群！ 水平土圧に非常に強い

## **特定都市河川浸水被害対策法**

「雨水浸透阻害行為許可等のための雨水貯留浸透施設設計

・施工技術指針（新川流域編）」における

**雨水貯留浸透施設「プラスチック貯留材」に対応**

### **こんなときに「クロスウェーブ」をご検討下さい**

- **プラスチック貯留材（樹脂性貯留材）**使用による地下貯留槽を検討したいが、構造的に問題ないのか不安。
- **特定都市河川浸水被害対策法**に対応した雨水流出抑制施設もしくは雨水貯留浸透施設の設置を検討したい。
- 浸水被害地域の軽減策の一環として公共用地（既設の公園・学校等）の地下を活用して地下式調整池の設置を検討したい。
- 表面貯留で雨水貯留を計画しているが、計画平面だけでは必要貯留量すべてを確保できない。
- 地下調整池をコンクリート方式で検討しているがコストが合わない。
- 敷地を有効に活用したいため駐車場下に地下式調整池を検討したい。
- 排水先の高さ関係から、極力雨水貯留浸透施設の厚みを小さくしたい。
- 既設のオープン（掘り込み式）調整池の機能を維持したまま上部利用を検討したい。